
First Love ~ 桜舞う季節 ~

双魔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

First Love 桜舞う季節

【Nコード】

N9022A

【作者名】

双魔

【あらすじ】

文章力ゼロですが読んでください

第一話　出会い

ざああああ

外は大雨だ。ちなみに今日の天気予報では晴れだった

　　桜山学園

「雨降るなよ……やっぱり良[○]の天気予報あてにならん」

こいつは主人公……の友達の大護^{だいご}大護は髪が赤く眉毛ぐらいまで伸びている。体格はゴツイ

「はあ…傘持つて来てないし。」

大護が困り果てていると後ろから、突然…後ろから

「傘貸してあげるちょ」

つと話し掛けて来たのは武髪^{たけし}は黒でサラサラした感じだ

ちなみに語尾に『ちょ』をつける。なので変わってる感じから人気を集めている

「マジで!!」

そんなに雨で濡れるのが嫌なのか、かなり喜ぶ

だが一つの疑問が浮かんだようだ

「でもよ。お前の分はあるのか？」

武は優しいので自分を犠牲にしてまでも人に優しくする。

そういう所が、人気の証だ

すると武はバックから折り畳み傘を取り出す

「2つあるから大丈夫ちょ」

普通の傘と折り畳み傘を持っている……何故だつと大護は疑問に……

「さすがだな。サンキュー」

疑問に思っはすがなかった。

しばらく武と大護は教室で雑談していると時計は6時を過ぎていた
「俺はそろそろ帰るちょ。」

つと言うと慌ただしく帰りの準備をやりだす
「もうこんな時間かよ…それにしても遅いぞ。あのバカ」
大護は人待ちのようだ

「よし！！終わったちょ。また明日なつちょ」
つと言うと教室から走り去っていった
「慌ただしい奴だな……。」

武が帰って10分が経った
いまだ外は大雨だ。止む気配がない

教室には大護以外にもう一人いた
「あれ？まだ帰らないの？」
つと一人寂しく残ってる女の子に話し掛けた
「だって……傘持っていないんだもん。」
負のオーラを漂わせ言ってきた

「慌ただしい奴だな……。」

武が帰って10分が経った
いまだ外は大雨だ。止む気配がない

教室には大護以外にもう一人いた
「あれ？まだ帰らないの？」
つと一人寂しく残ってる女の子に話し掛けた
「だって……傘持っていないんだもん。」
負のオーラを漂わせ言ってきた
「そうなの？傘持ってるけどいる？」
武から借りた傘を自分の見たいに使う
「でも君が濡れるよ。」

つと女の子は心配する

「大丈夫だよ。なんなら二人で一緒に帰る？」

ニヤニヤしながら言い放つ

明らかに不審者だ。学校内に不審者がいる。

「私は、いいけど」

女の子は良い人だった

「マジで！！そしたら帰ろうか。」

先に帰らしてもらうぜ…もう待たない

大護は主人公を裏切った

「あつ！？私は、めぐみって言うの」

つと自己紹介をしだす

「俺は大護だから。呼び捨てでいいよ」

この後、二人は仲良く帰った

く大護達が帰って10分後く

ダラダラつと廊下を歩き自分の教室の一年二組に帰る男がいた

「大護待ってるかな？」

こいつは主人公の真^{まこと}

登場が遅い主人公だ

いままで校長のパシリに使われていた

「なんで俺が書類を整理しないといけないんだ。」

ここの校長は変わっている。

だから校則も緩い、髪を染めて大丈夫。制服はあるが着なくても大丈夫。

その他もろもろ

さすがに生徒達は制服を来て学校に来る。

自分達がしっかりしないと校長がバカだからだ

どうこうしている内に教室についた。教室の扉を開け

「……だれもない」

真は女に負けた

「はあゝ一人で帰るか……」
一人寂しく帰ることにした。

真は靴箱につくと一人の女の子に気づく

「あれ……確か四組の空ちゃんだ。」

女の子は苦手なんだよな……どうしても……どうしても……なってしまうもんな

真は空に見つからないように行くつもりだったが

「あれ？まこっちゃんだ。なにしてるの？」

簡単に気づかれてしまった

「べ……べ……別に」

真は……上がり病だった。女の子の前では……

「そ……そ……空ちゃんは……なにしてるの？」

声が裏返りまくりだ

「私は雨が止むの待ってるの」

「そ……うな……んだ」

傘を忘れたんだ。

「あのさ……傘……いる？」

つと頑張って言う

「いいよ……まこっちゃんの濡れるよ」

「だ……大丈夫だから」

つと真は空に傘を渡し走って帰った

「……ありがとうね」

これが二人の出会いだった

第一話〜出会い〜（後書き）

感想をもらえると嬉しいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9022a/>

First Love ~ 桜舞う季節 ~

2011年1月20日03時55分発行